

1 目的

建設業界は、就業者数の減少や高齢化が急速に進み、人材不足が深刻化している。頻発する災害やインフラ老朽化に対応していくためには、「i-Construction」を推進し、建設現場の生産性向上を図っていく必要がある。

その中でも特に建設現場での作業に多くの活用の可能性のあるICT施工について、導入が一層進むよう強力に推進する必要がある。ICT施工導入が進まない背景の一つに、施工に先立って行う必要のある「3次元測量」、「3次元設計」や施工完了後に行う「3次元出来形管理等」、「3次元データ納品」の実施方法が判らないことが大きな要因となっていると考えられる。そのため、ICT施工にチャレンジする企業を支援する体制・仕組みづくりを構築することにより、ICT活用工事の推進を図ることを目的とする。

Ⅲ 異業種コラボによるICTの推進

ICT施工に取り組んでいこうとしている建設会社を支援するため、「3次元測量」、「3次元設計データ作成」の対応可能な測量・設計会社により「(仮称)やまがたICT支援隊」(以下、支援隊という)を組織し、建設会社をサポートする体制を整備する。

建設会社が3次元測量・設計等のノウハウを持つ支援隊メンバーに業務を依頼することにより、円滑にICTを導入することが可能となり、「生産性の向上」に寄与することが期待される。

また、測量・設計会社は、支援隊のメンバーとなることで、会社が持つ3次元測量・設計等に関するノウハウを提供する機会が増加し、受注機会の増加に繋がることが期待される。

Ⅱ ICT施工の現状と課題

(1) ICT活用工事のプロセスと実施方法



建設会社は、測量・設計会社へ①3次元測量及び②3次元設計データ作成を依頼
※内製化されている建設会社を除く。

3次元データを活用した③ICT建設機械施工

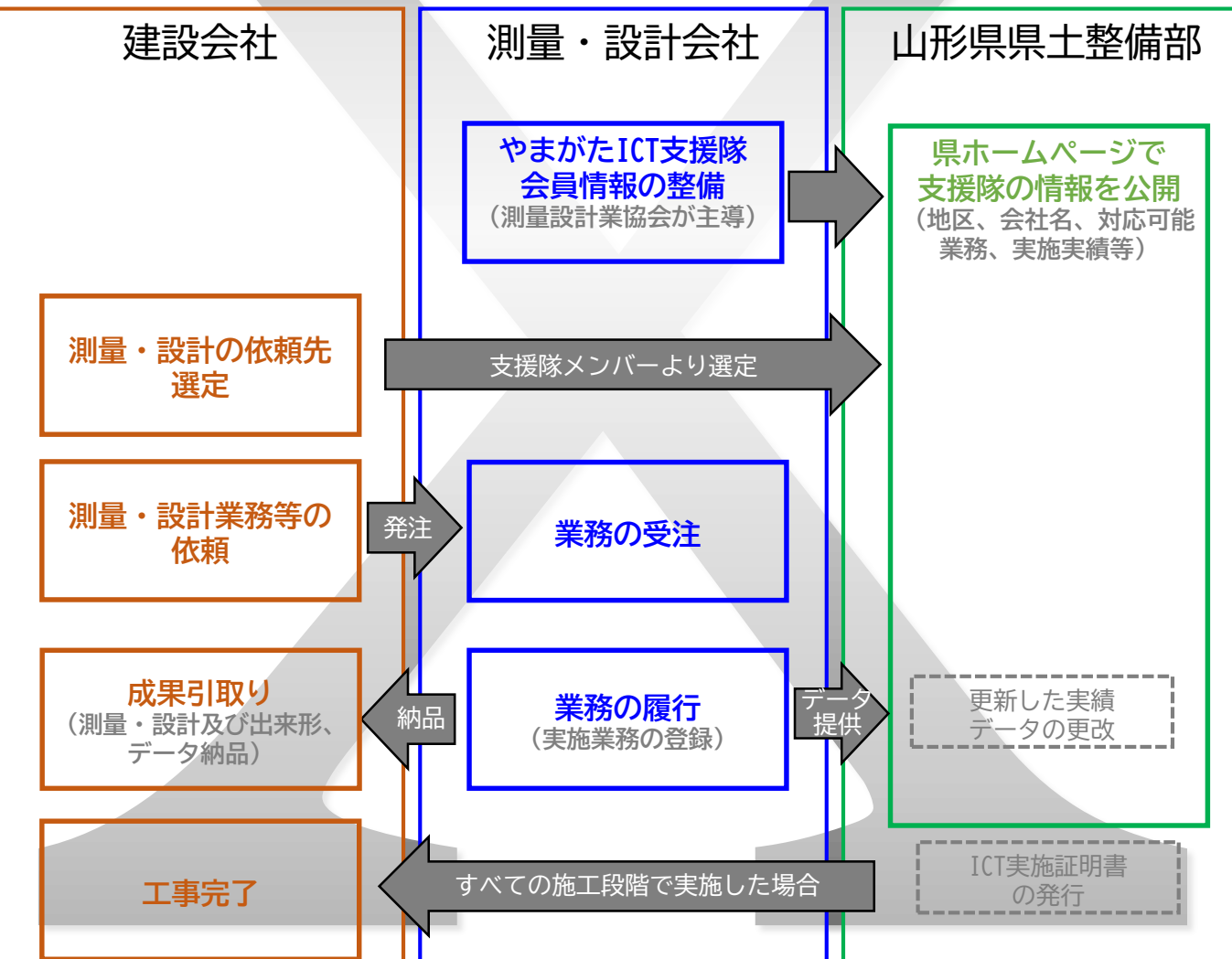
建設会社は、測量・設計会社へ④3次元測量及び⑤3次元設計データ作成を依頼
※内製化されている建設会社を除く。

(2) 課題と解決に向けた方策

- <課題>
- ・初めてICT施工に取り組もうとした場合、3次元測量・設計の進め方や相談先、依頼先が判らない。(建設会社)
 - ・3次元測量や3次元設計を実施するノウハウがあるのに、受注機会が少ない。(測量・設計会社)

・建設会社と測量・設計会社をマッチング
・異業種コラボレーションによりICTを推進！！

やまがたICT支援隊の活用(業務フロー)



(活用のメリット)
3次元測量・設計の実施可能な依頼先が明確となり、ICT活用工事の不安が軽減される。

(活用のメリット)
3次元測量・設計技術を有していることが公表されることにより、受注機会の拡大に繋がる。

(活用のメリット)
ICT活用工事を推進していくことにより、建設産業全体の「生産性向上」に繋がることが期待される。